

1. 人権について

問1 人権についての関心度

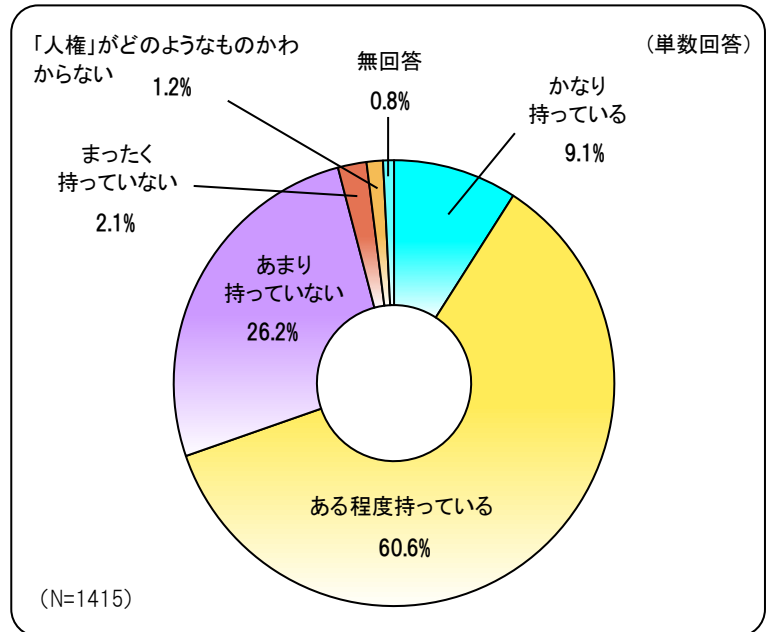
あなたは、「人権」に関心を持っていますか。次の中から選んでください。(〇は1つだけ)

- 1. かなり持っている
- 2. ある程度持っている
- 3. あまり持っていない
- 4. まったく持っていない
- 5. 「人権」がどのようなものかわからない

全体集計

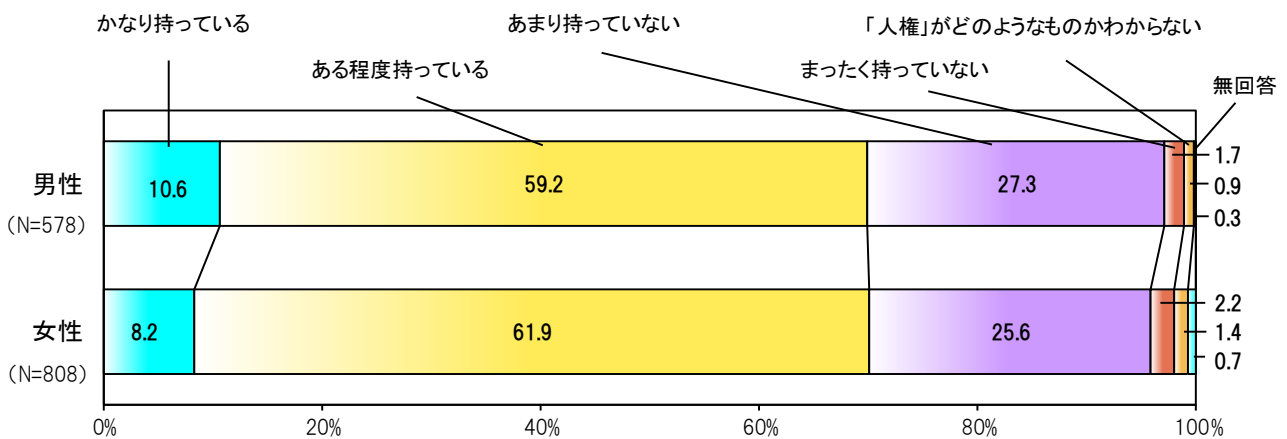
「ある程度持っている」の割合が60.6%と最も高く、「かなり持っている」の9.1%と合わせると69.7%が人権に関心があるとしている。

一方、「あまり持っていない」の26.2%と「まったく持っていない」の2.1%を合わせた28.3%が人権に関心がないとしている。



性別集計

(単数回答、単位: %)

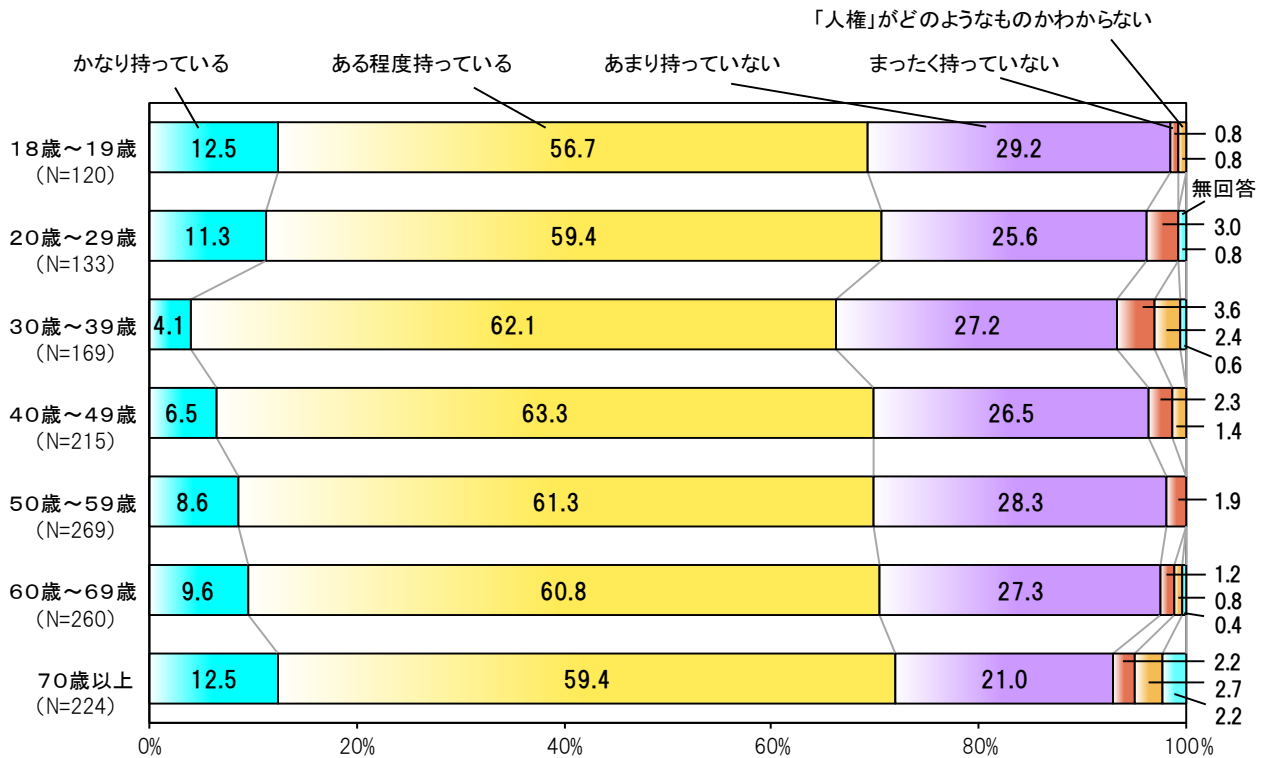


性別で見ると、女性、男性ともに約7割の方が「かなり持っている」あるいは「ある程度持っている」と回答し、人権に関心があるとしている。

また、「あまり持っていない」と「まったく持っていない」を合わせた「人権に関心がない」割合は、女性(27.8%)よりも男性(29.0%)の方が1.2ポイント高くなっている。

年齢別集計

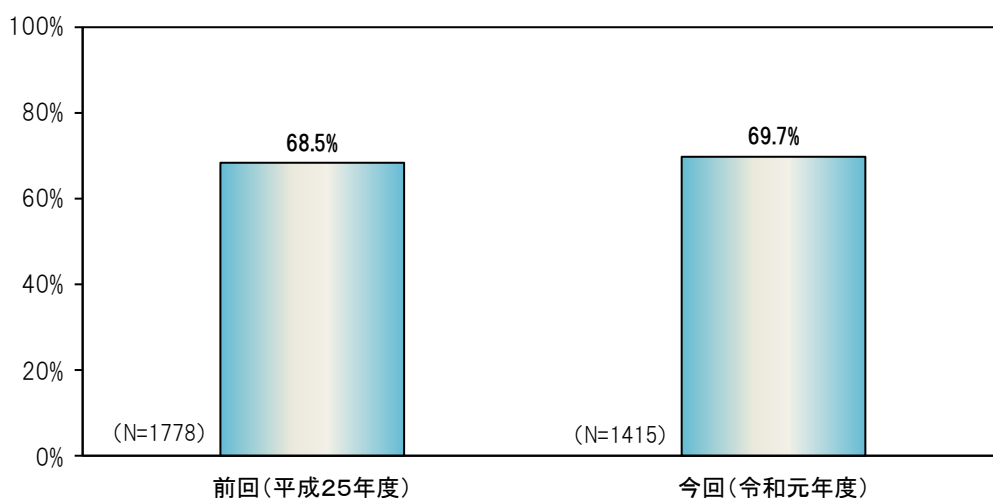
(単数回答、単位：%)



年齢別で見ると、「人権に関心がある」で、最も高かった割合は70歳代で71.9%である。また、最も低かったのは30歳代で66.2%となっている。

過去の調査との比較

「人権に関心がある」割合について、前回の調査と比較した。



前回(平成25年度)調査と比較すると、「人権に関心がある」割合(「かなり持っている」と「ある程度持っている」を合わせた割合)は1.2ポイント増加している。

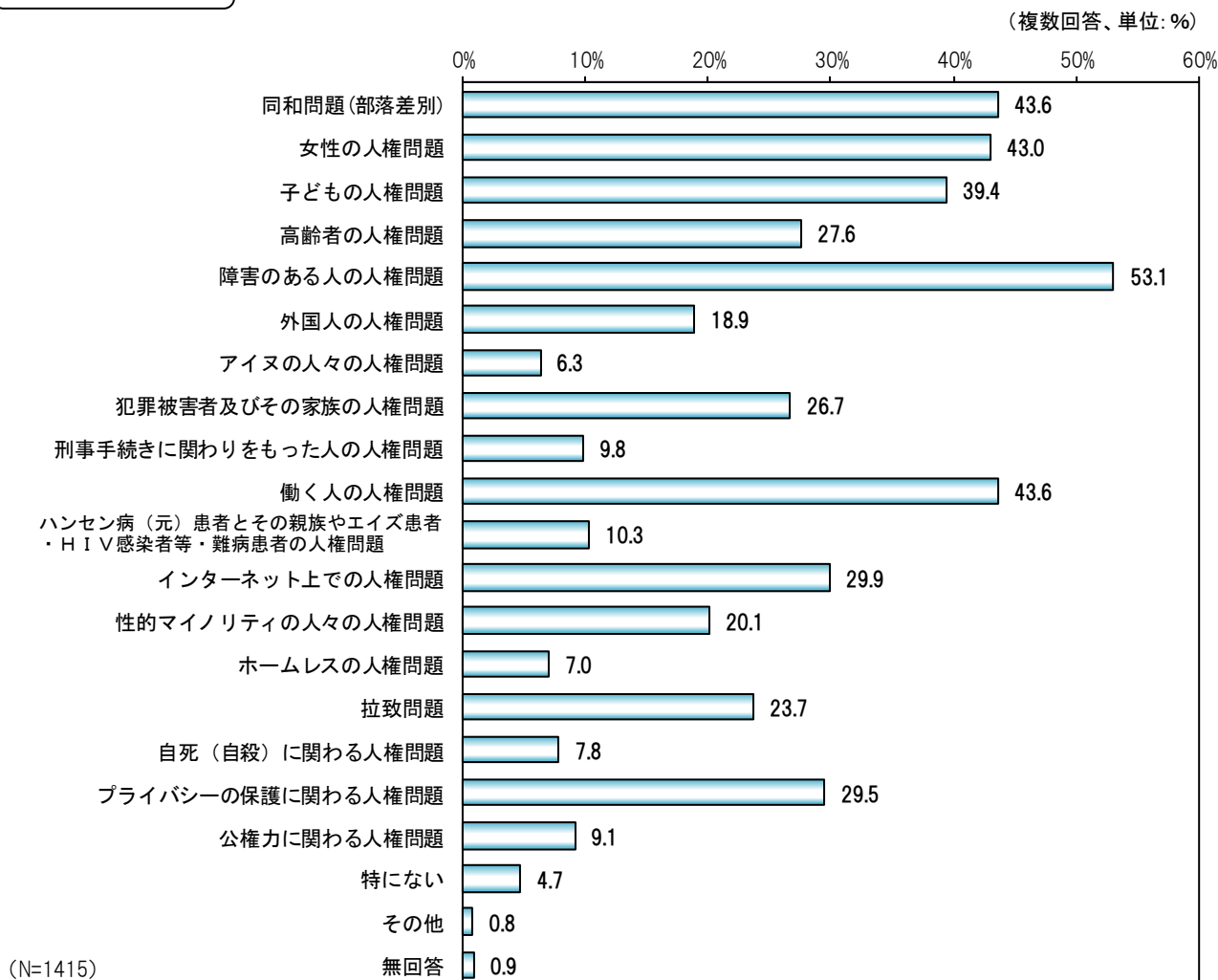
問2 関心のある人権問題

あなたは、「人権問題」というと、特にどのような問題に関心がありますか。

次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

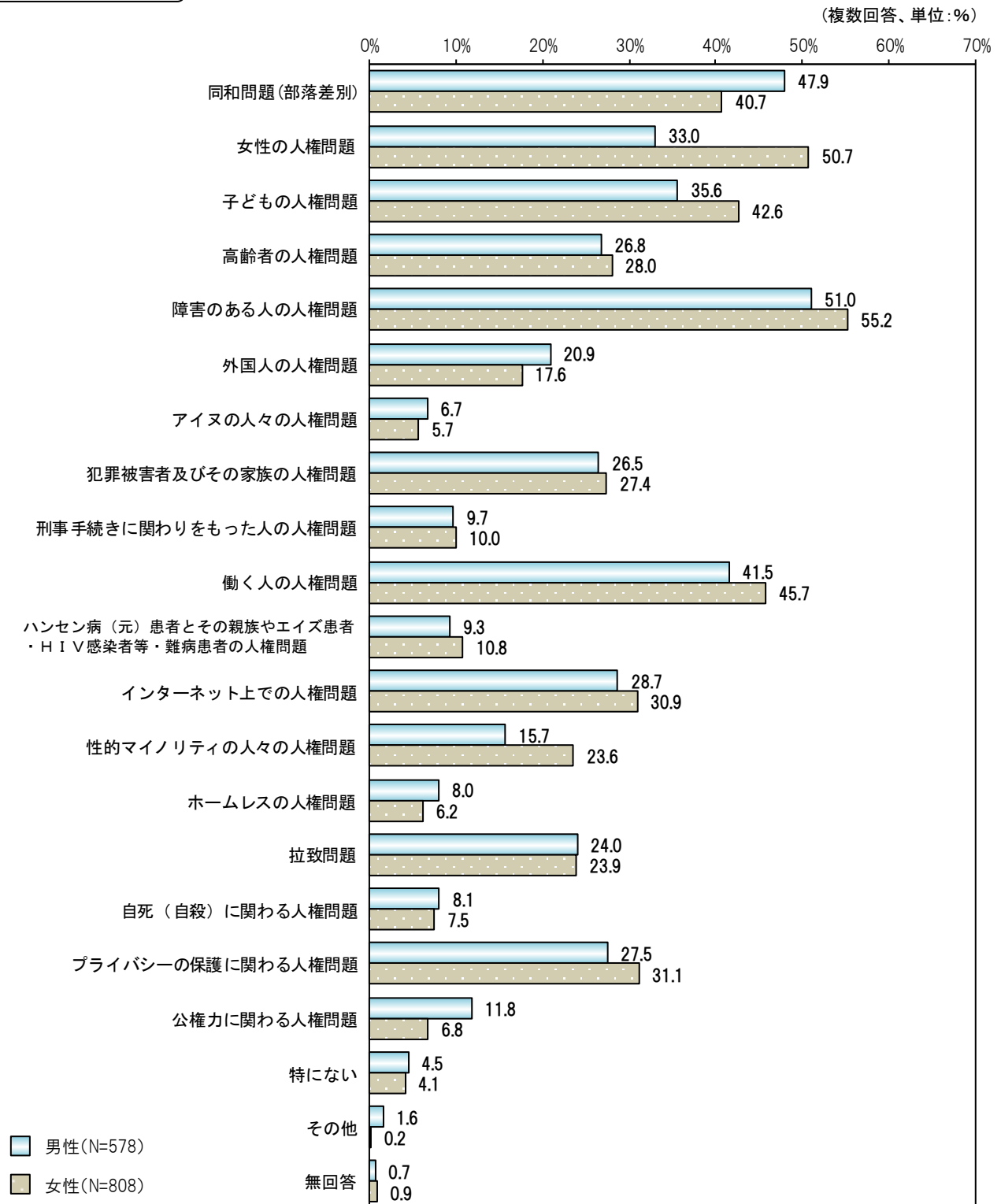
1. 同和問題（部落差別）
2. 女性の人権問題
3. 子どもの人権問題
4. 高齢者の人権問題
5. 障害のある人の人権問題
6. 外国人の人権問題（ヘイトスピーチなど）
7. アイヌの人々の人権問題
8. 犯罪被害者及びその家族の人権問題
9. 刑事手続きに関わりをもった人（刑務所などを出所した人や被疑者、被告人）の人権問題
10. 働く人の人権問題（職場におけるハラスメントの問題や長時間労働など）
11. ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・H I V感染者等・難病患者の人権問題
12. インターネット上での人権問題
13. 性的マイノリティの人々（同性愛者、性同一性障害、自分の性に違和感があるなどの人々）の人権問題
14. ホームレスの人権問題
15. 拉致問題
16. 自死（自殺）に関わる人権問題
17. プライバシーの保護に関わる人権問題
18. 公権力に関わる人権問題
19. 特にない
20. その他（ ）

全体集計



「障害のある人の人権問題」の割合が 53.1% と最も多く、次いで「同和問題（部落差別）」、「働く人の人権問題」が 43.6 % となっている。

性別集計

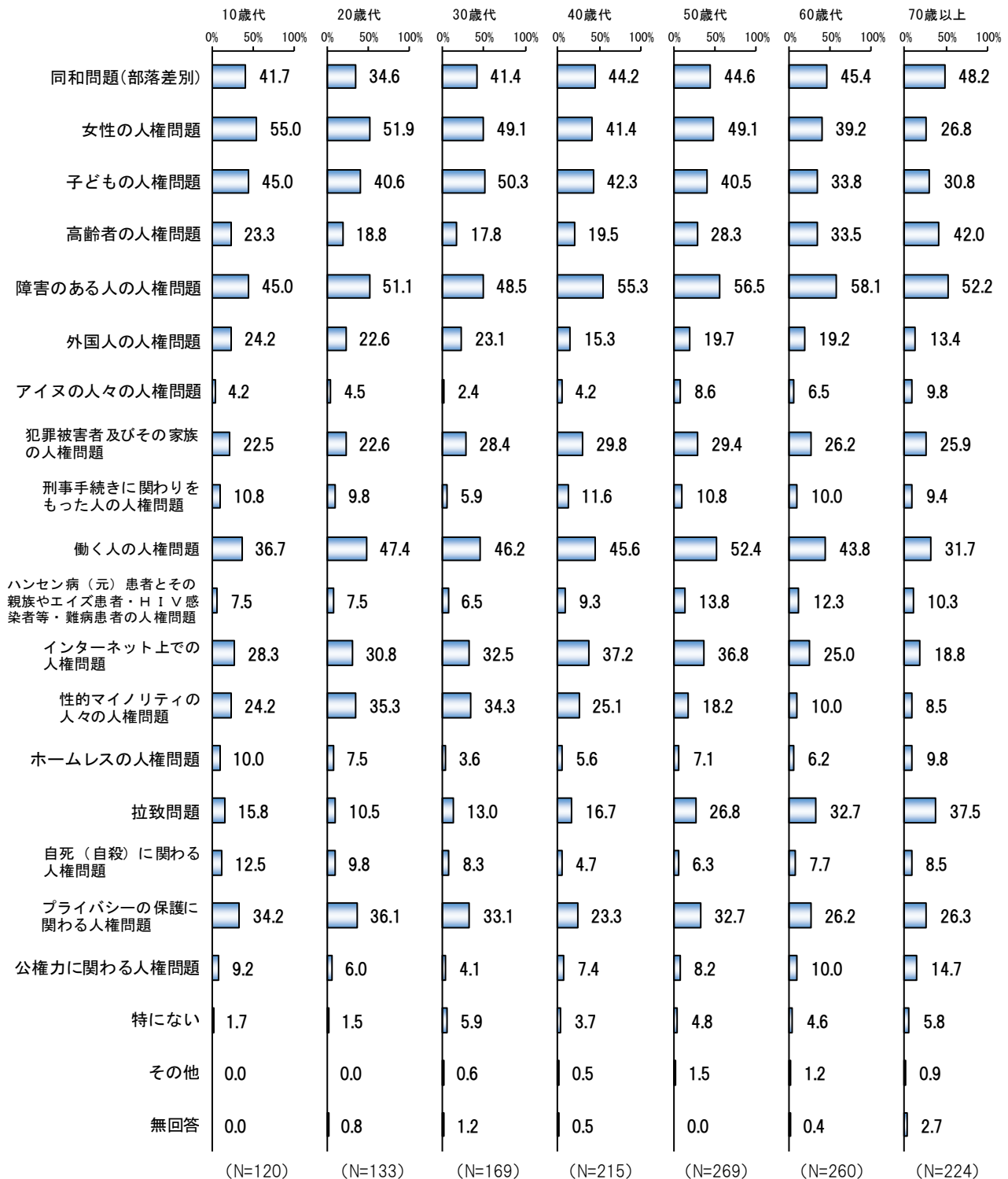


性別で見ると、男女ともに「障害のある人の人権問題」の割合が最も高く、第2位は男性が「同和問題(部落差別)」、女性が「女性の人権問題」、第3位は男女とも「働く人の人権問題」となっている。

「女性の人権問題」が最も男女差が大きく、男性(33.0%)よりも女性(50.7%)の方が17.7ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位:%)



年齢別で見ると、10、20歳代では「女性の人権問題」、30歳代では「子どもの人権問題」、40歳代以上では「障害のある人の人権問題」の割合が最も高くなっている。

過去の調査との比較

割合が高い順に比較

	前回（平成25年度）		今回（令和元年度）	
1	同和問題（部落差別）	44.8%	障害のある人の人権問題	53.1%
2	障害のある人の人権問題	42.0%	同和問題（部落差別）	43.6%
3	働く人の人権問題	36.7%	働く人の人権問題	43.6%
4	女性の人権問題	34.9%	女性の人権問題	43.0%
5	子どもの人権問題	32.1%	子どもの人権問題	39.4%
6	インターネットへの書き込みによる人権侵害問題	28.2%	インターネット上での人権問題	29.9%
7	高齢者の人権問題	27.3%	プライバシーの保護に関わる人権問題	29.5%
8	犯罪被害者及びその家族の人権問題	19.0%	高齢者の人権問題	27.6%
9	外国人の人権問題	11.5%	犯罪被害者及びその家族の人権問題	26.7%
10	刑を終えた人及びその家族の人権問題	11.2%	拉致問題	23.7%
11	エイズ患者・HIV感染者等・ハンセン病（元）患者や難病患者の人権問題	11.2%	性的マイノリティの人々の人権問題	20.1%
12	ホームレスの問題	10.1%	外国人の人権問題	18.9%
13	性同一性障害者の人権問題	9.8%	ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・HIV感染者等・難病患者の人権問題	10.3%
14	性的指向の異なる人の人権問題	7.5%	刑事手続きに関わりをもった人の人権問題	9.8%
15	特にない	7.1%	公権力に関わる人権問題	9.1%
16	アイヌの人の人権問題	4.7%	自死（自殺）に関わる人権問題	7.8%
17	無回答	2.2%	ホームレスの人権問題	7.0%
18	その他	1.0%	アイヌの人々の人権問題	6.3%
19			特にない	4.7%
20			無回答	0.9%
21			その他	0.8%

平成25年度調査と比較すると、前回第2位の「障害のある人の人権問題」の割合が5割を超え、第1位となっている。続く第2～4位の「同和問題（部落差別）」、「働く人の人権問題」、「女性の人権問題」の割合は4割を超え、依然として関心が高い項目となっている。

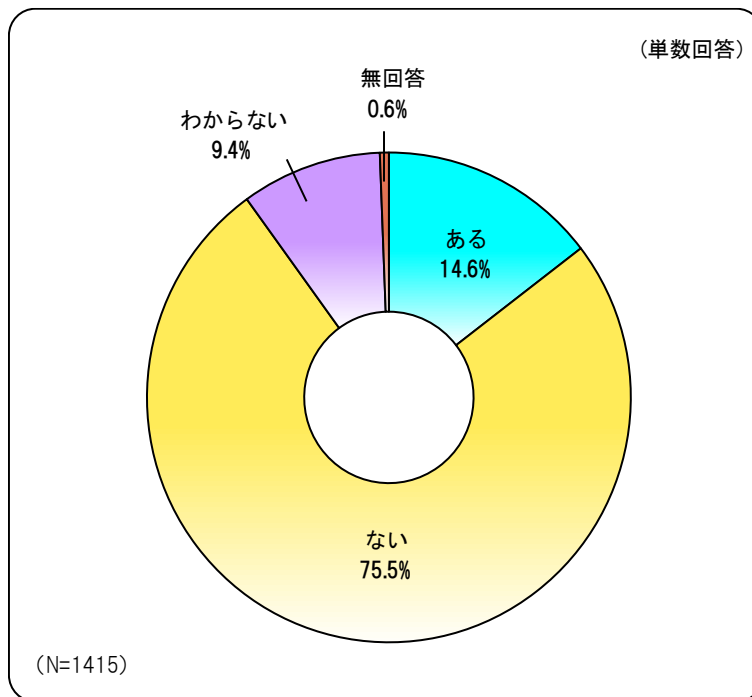
問3 自分が受けた人権侵害の有無

あなたは、過去約5年の間に、自分が差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)

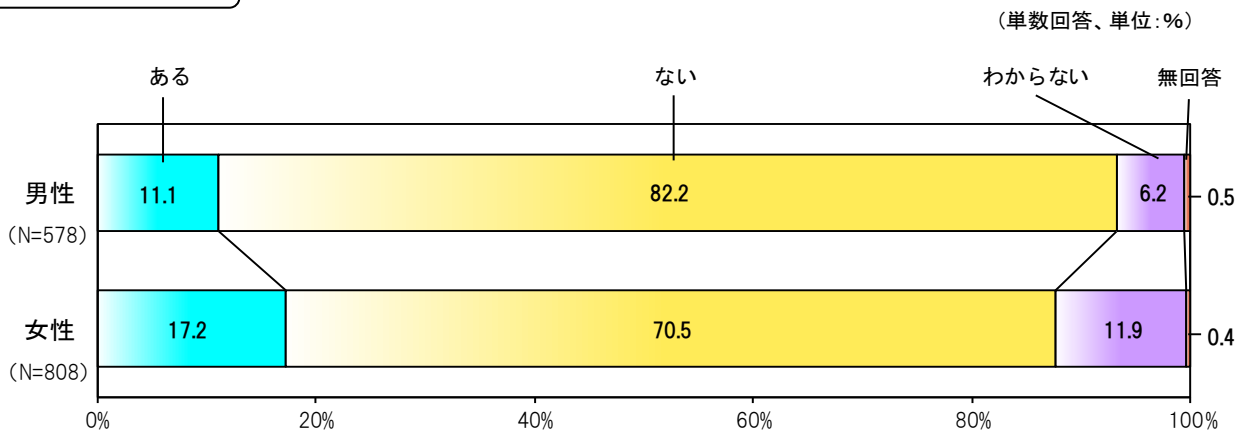
- 1. ある → 問3-2、問3-3をお答えください
- 2. ない → 問4にお進みください
- 3. わからない →

全体集計

差別や人権侵害を受けたと感じたことが「ない」割合が75.5%と高くみられるものの、受けたと感じたことが「ある」は14.6%となっている。



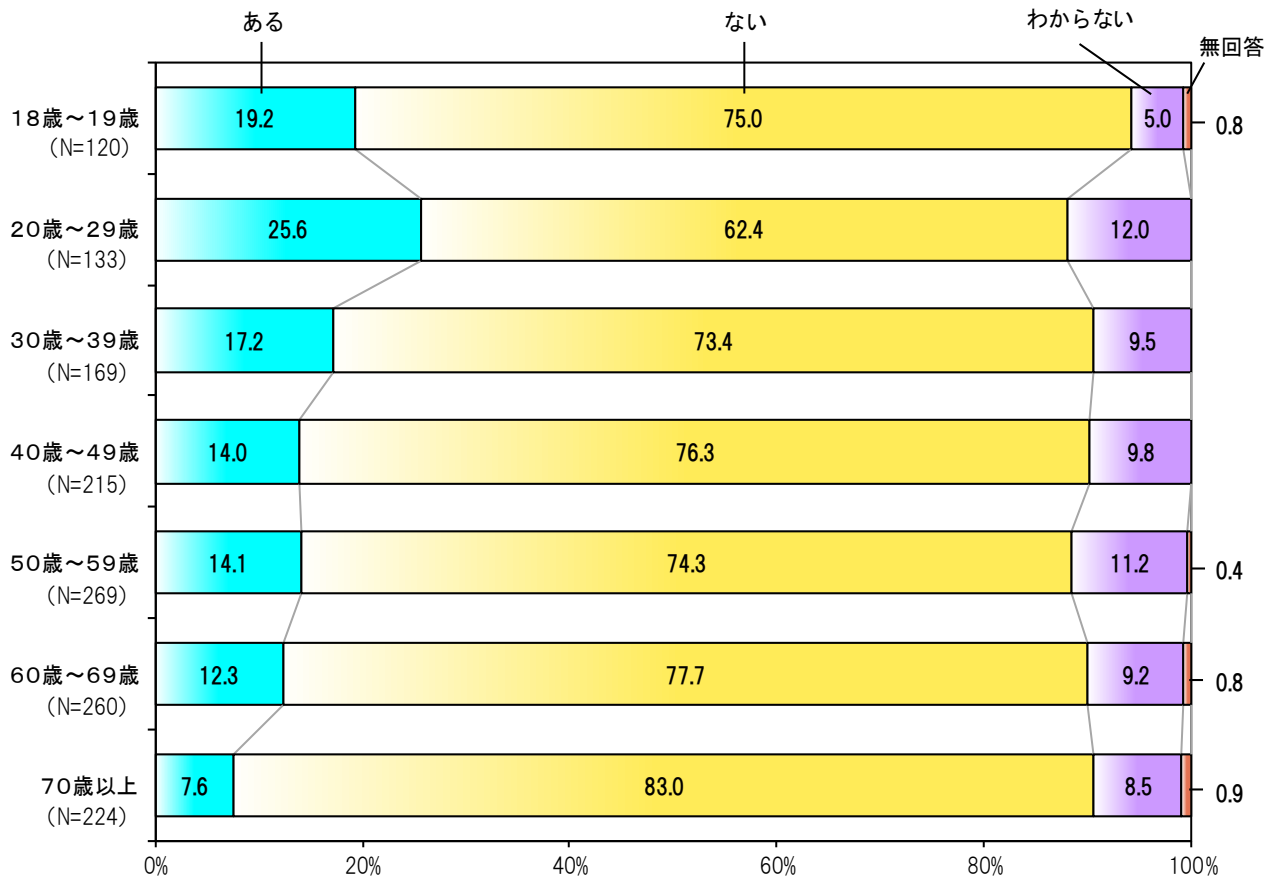
性別集計



性別でみると、人権侵害を受けたと感じたことが「ある」割合は、男性（11.1%）よりも女性（17.2%）の方が6.1ポイント高くなっている。

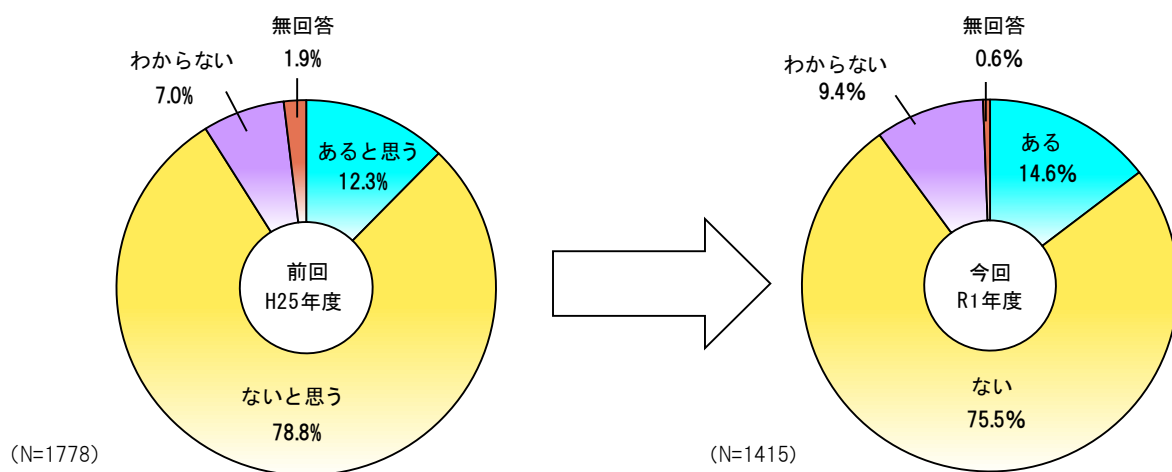
年齢別集計

(単数回答、単位：%)



年齢別でみると、「ある」の割合は20歳代が25.6%と最も高く、次いで10歳代が19.2%、30歳代が17.2%となり、20歳代以上は年齢が高くなるにつれ、割合が減少する傾向がみられる。

過去の調査との比較



前回の調査と比較すると、人権侵害を受けたと感じたことが「ある」割合は2.3ポイント増加し、「ない」は3.3ポイント減少している。

問3-2 自分が受けた人権侵害の内容

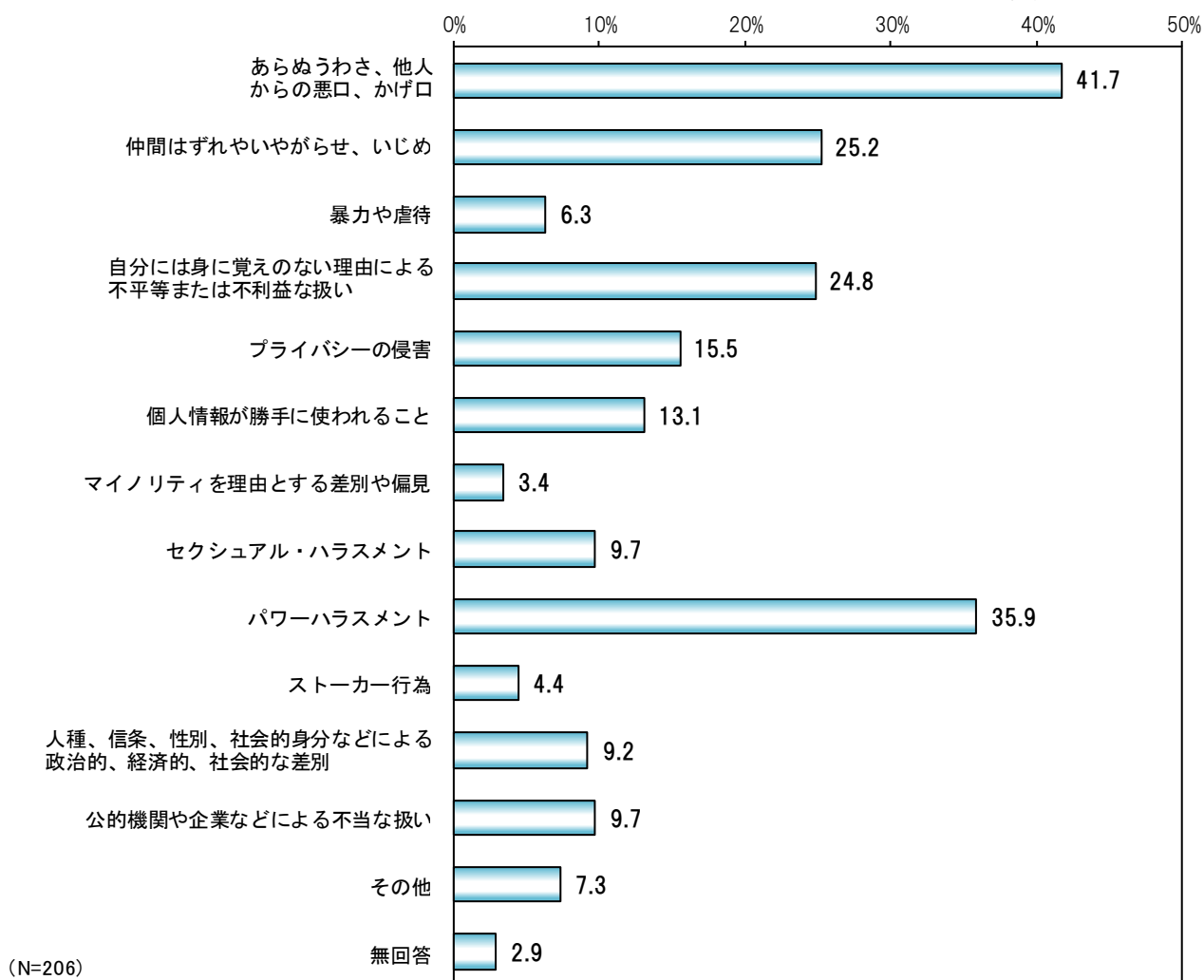
問3で「ある」と答えた方におたずねします。それはどのような場合ですか。

次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口
2. 仲間はずれやいやがらせ、いじめ
3. 暴力や虐待
4. 自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い
5. プライバシーの侵害
6. 個人情報が勝手に使われること
7. マイノリティを理由とする差別や偏見
8. セクシュアル・ハラスメント
9. パワーハラスメント
10. ストーカー行為
11. 人種、信条、性別、社会的身分などによる政治的、経済的、社会的な差別
12. 公的機関や企業などによる不当な扱い
13. その他 ()

全体集計

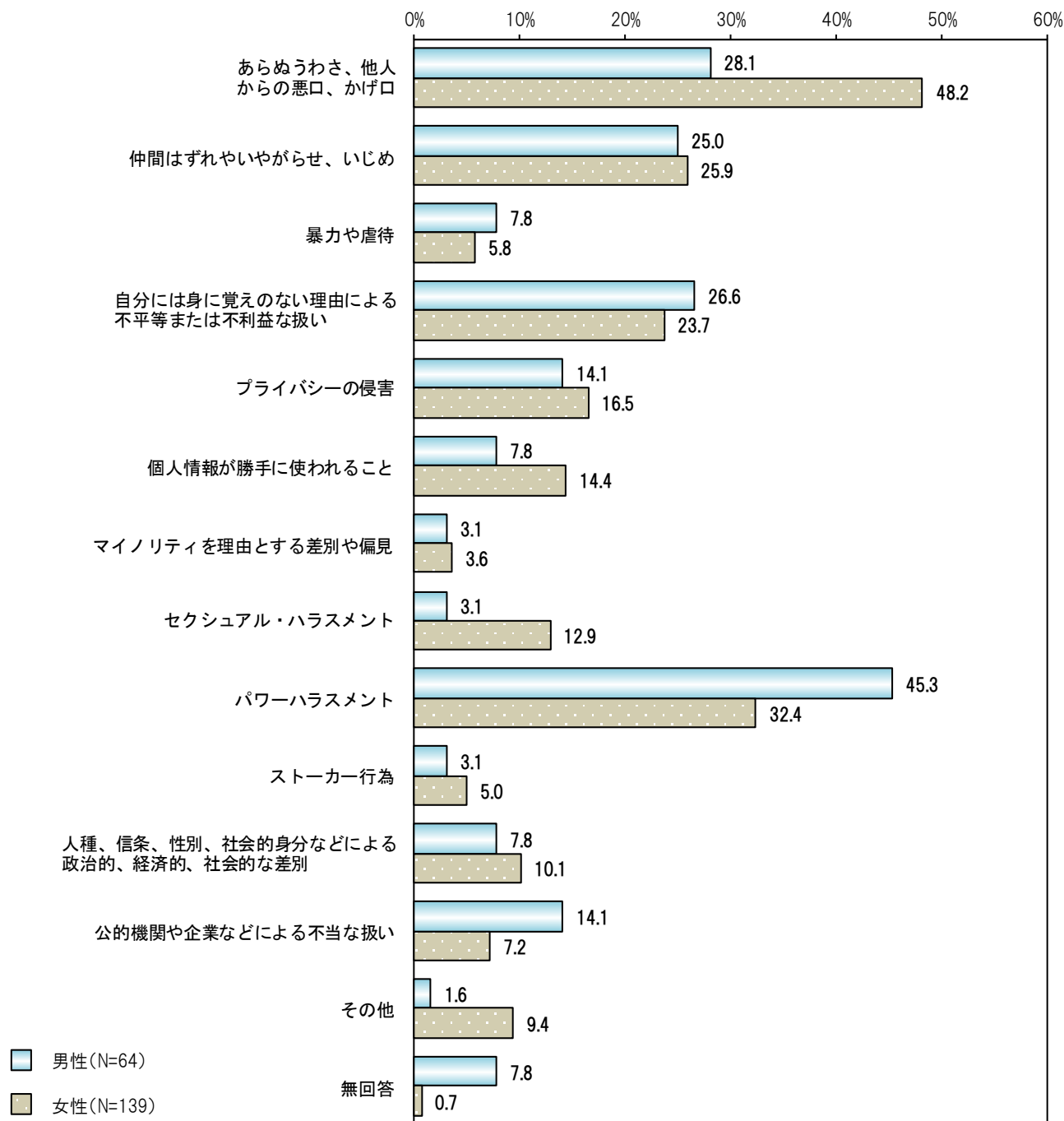
(複数回答、単位: %)



問3の「差別や人権侵害」を受けた内容について、「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」の割合が41.7%と最も高く、次いで「パワーハラスメント」が35.9%、「仲間はずれやいやがらせ、いじめ」が25.2%となっている。

性別集計

(複数回答、単位: %)



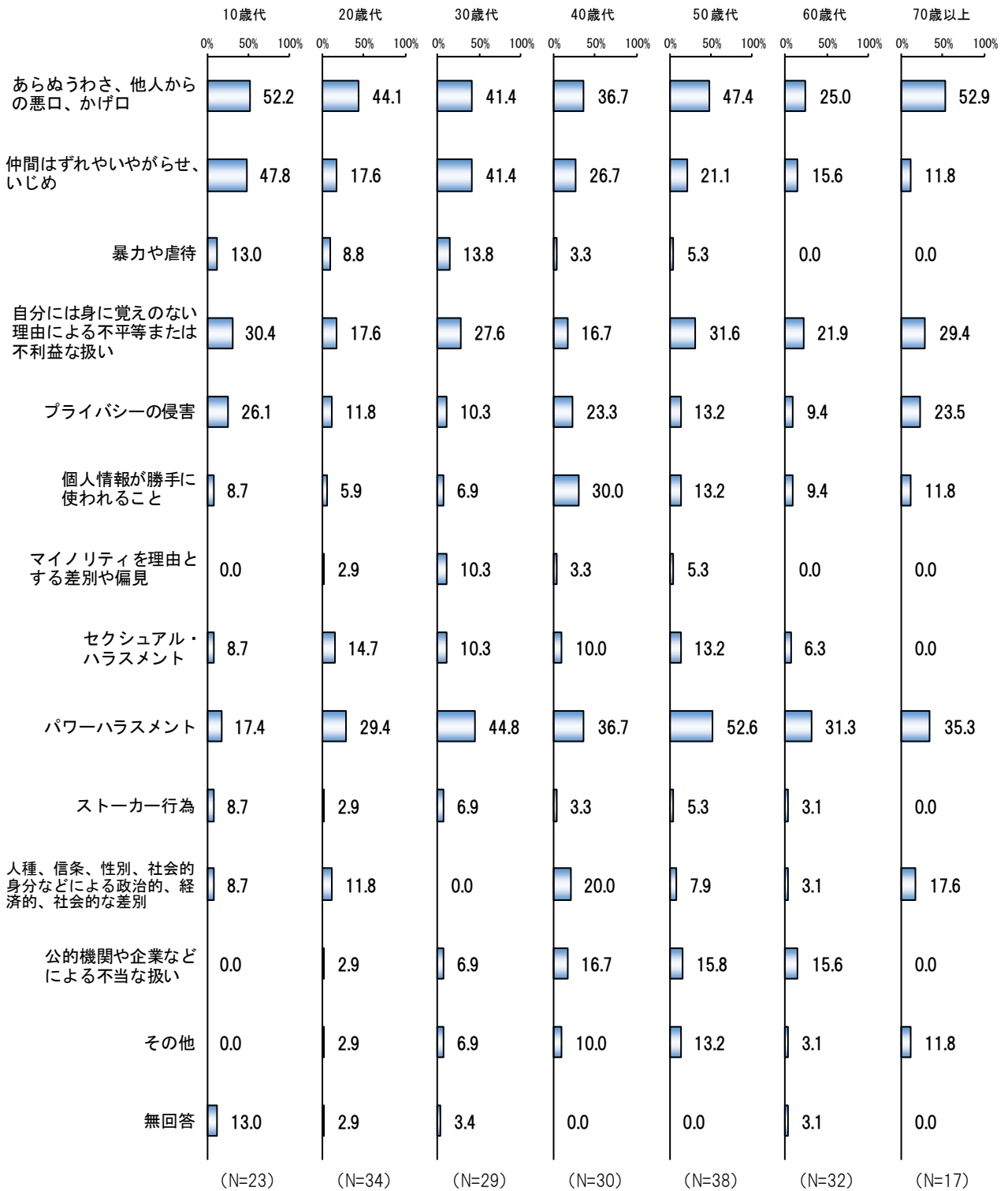
性別で見ると、男性は「パワーハラスメント」の割合が最も高く、次いで「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」、「自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い」の順となっている。

女性は「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」が最も高く、次いで「パワーハラスメント」、「仲間はずれやいやがらせ、いじめ」の順となっている。

「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」が最も男女差が大きく、男性(28.1%)よりも女性(48.2%)の方が20.1ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位: %)



年齢別でみると、10、20歳代、70歳以上は「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」、30、50、60歳代は「パワーハラスメント」、40歳代は同率で「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」、「パワーハラスメント」の割合が最も高くなっている。

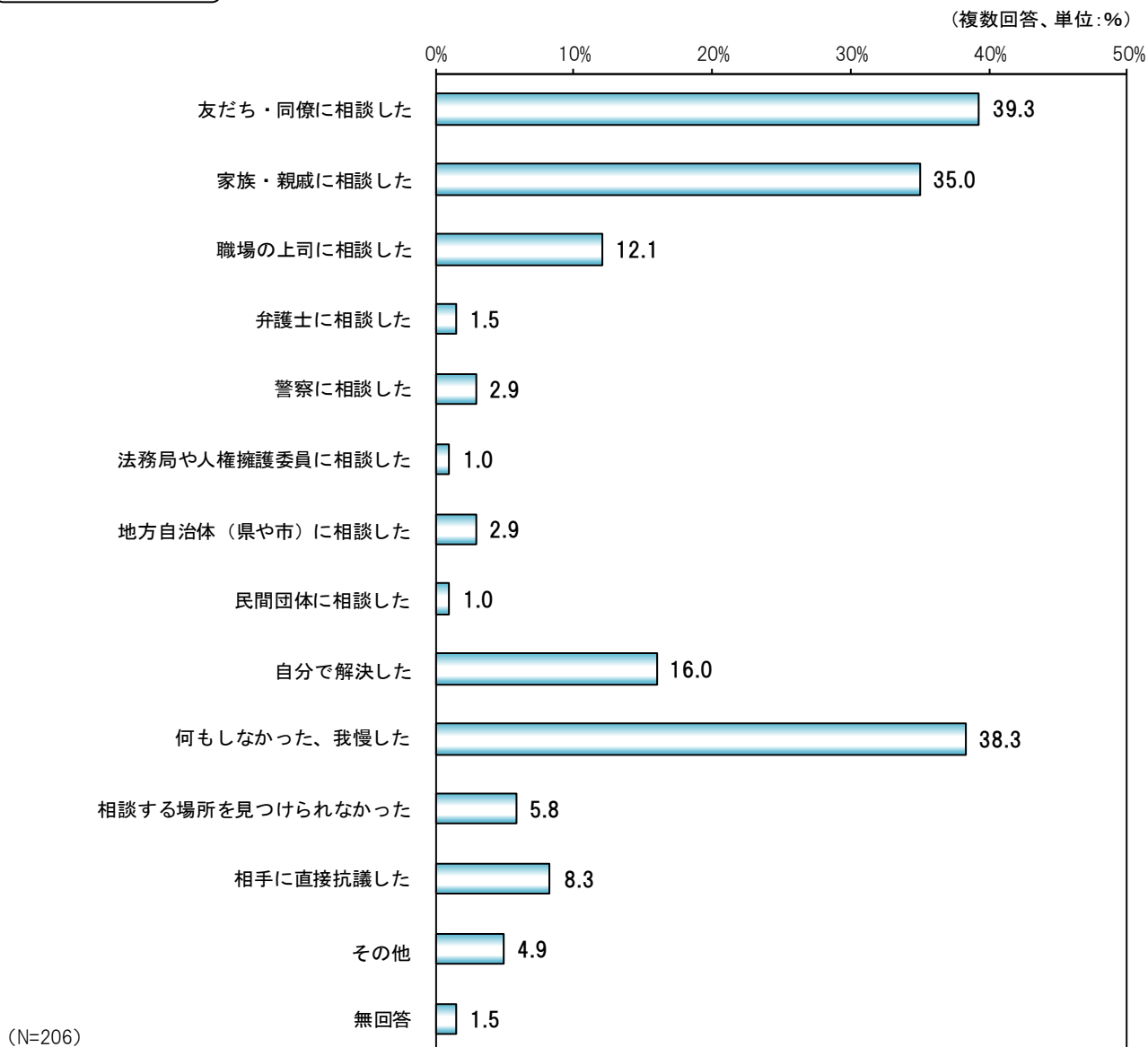
問3-3 人権侵害を受けたときの対応

問3で「ある」と答えた方におたずねします。その時どうされましたか。

次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 友だち・同僚に相談した
2. 家族・親戚に相談した
3. 職場の上司に相談した
4. 弁護士に相談した
5. 警察に相談した
6. 法務局や人権擁護委員に相談した
7. 地方自治体（県や市）に相談した
8. 民間団体に相談した
9. 自分で解決した
10. 何もしなかった、我慢した
11. 相談する場所を見つけられなかった
12. 相手に直接抗議した
13. その他（ ）

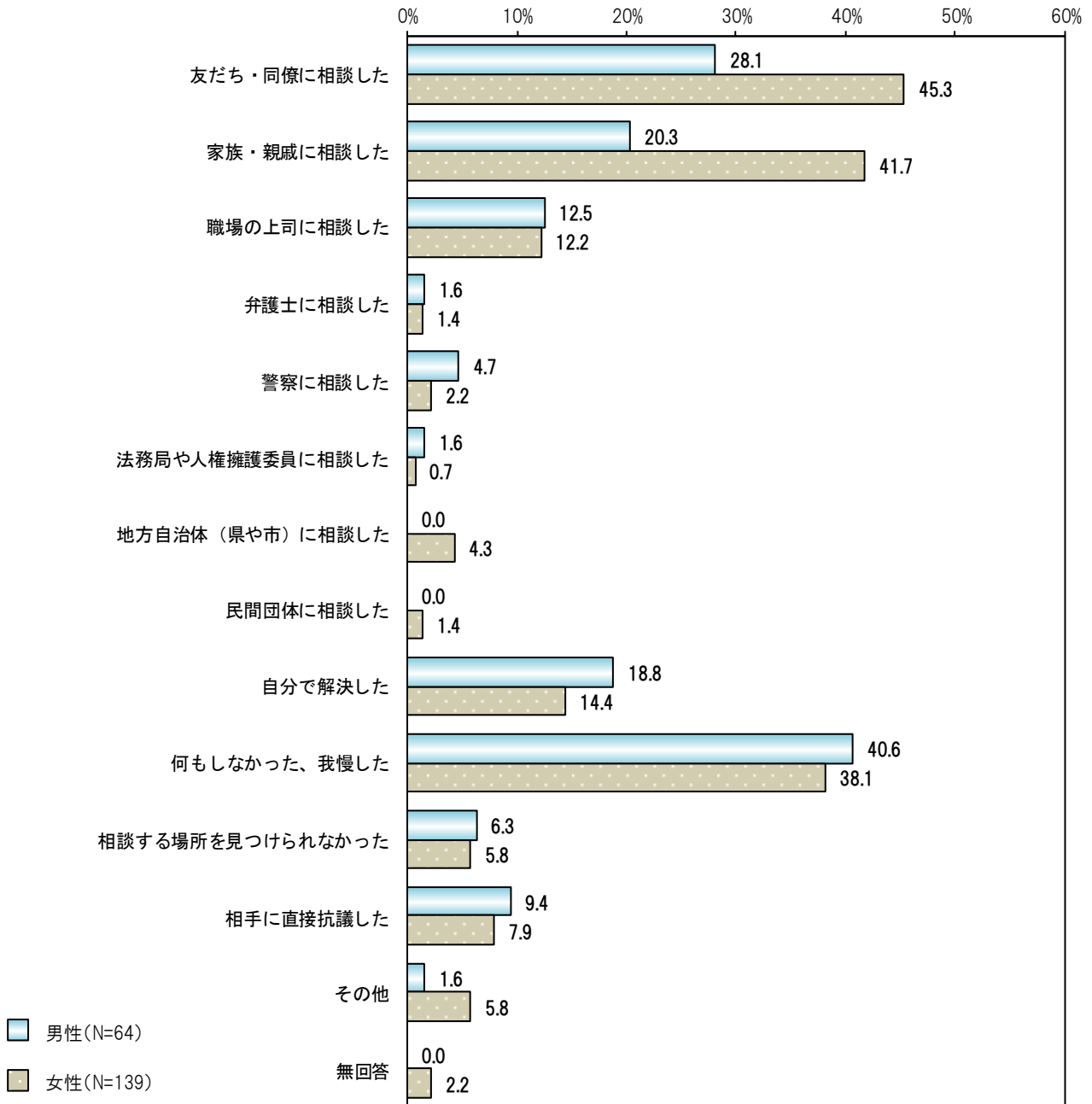
全体集計



差別や人権侵害を受けたと感じたときの対処方法について、「友達・同僚に相談した」の割合が39.3%と最も高く、次いで「何もしなかった、我慢した」が38.3%、「家族・親戚に相談した」が35.0%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

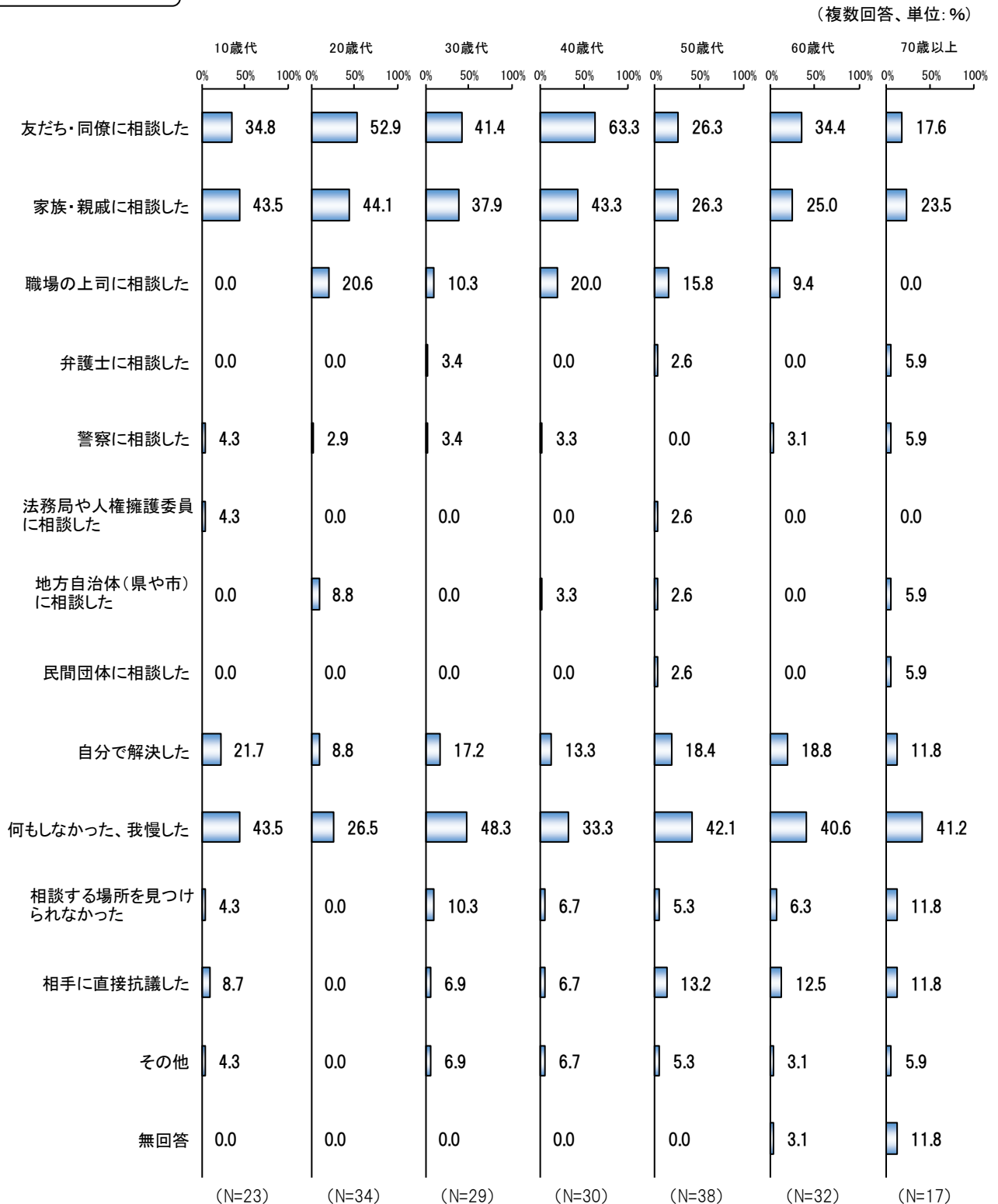


性別で見ると、男性は「何もしなかった、我慢した」の割合が最も高く、次いで「友だち・同僚に相談した」、「家族・親戚に相談した」の順となっている。

女性は、「友だち・同僚に相談した」が最も高く、次いで「家族・親戚に相談した」、「何もしなかった、我慢した」の順となっている。

「家族・親戚に相談した」が最も男女差が大きく、男性（20.3%）よりも女性（41.7%）の方が21.4ポイント高くなっている。

年齢別集計



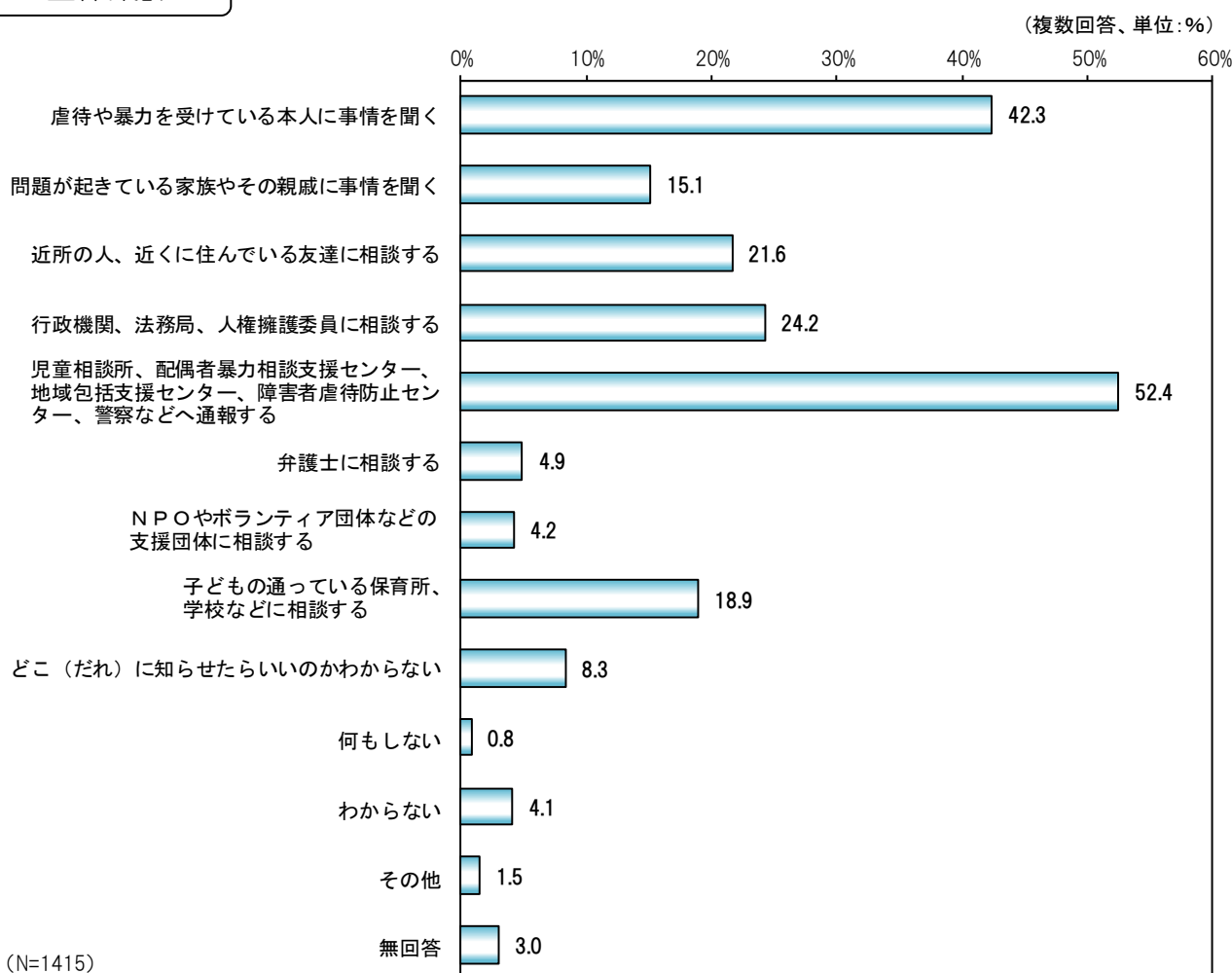
年齢別で見ると、10歳代は同率で「家族・親戚に相談した」、「何もしなかった、我慢した」、20、40歳代は「友だち・同僚に相談した」、30歳代、50歳代以上は「何もしなかった、我慢した」の割合が最も高くなっている。

問4 虐待を受けていることを知ったときの対応

あなたは、子ども、配偶者、高齢者、障害のある人等への虐待や暴力が、身の回りで起きていることを知ったらどうしますか。次の中から選んでください。(〇は3つまで)

1. 虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く
2. 問題が起きている家族やその親戚に事情を聞く
3. 近所の人、近くに住んでいる友達に相談する
4. 行政機関、法務局、人権擁護委員に相談する
5. 児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する
6. 弁護士に相談する
7. NPOやボランティア団体などの支援団体に相談する
8. 子どもの通っている保育所、学校などに相談する
9. どこ(だれ)に知らせたらいいのかわからない
10. 何もしない
11. わからない
12. その他()

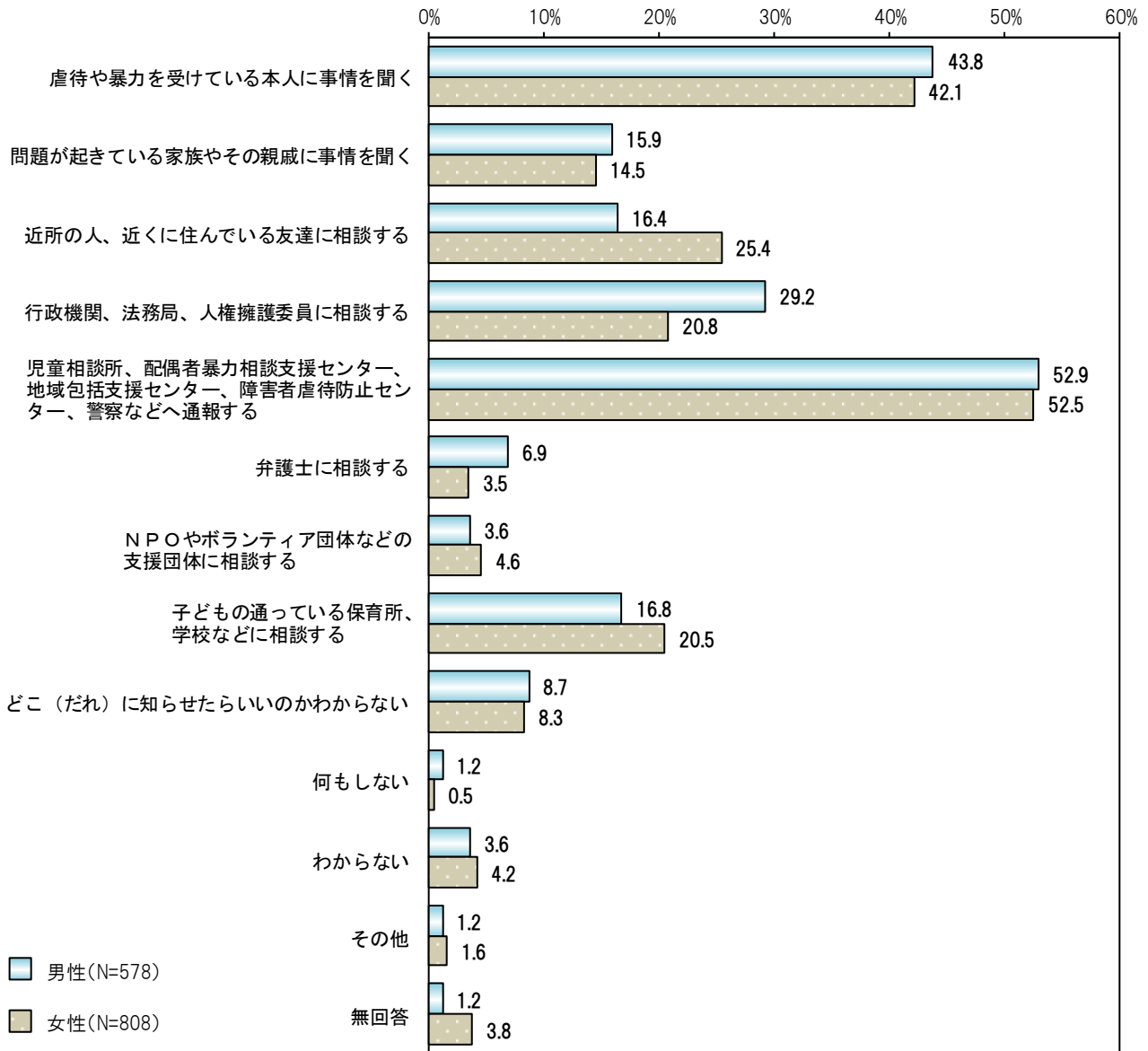
全体集計



「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が52.4%と最も高く、次いで「虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く」が42.3%、「行政機関、法務局、人権擁護委員に相談する」が24.2%となっている。

性別集計

(複数回答、単位: %)



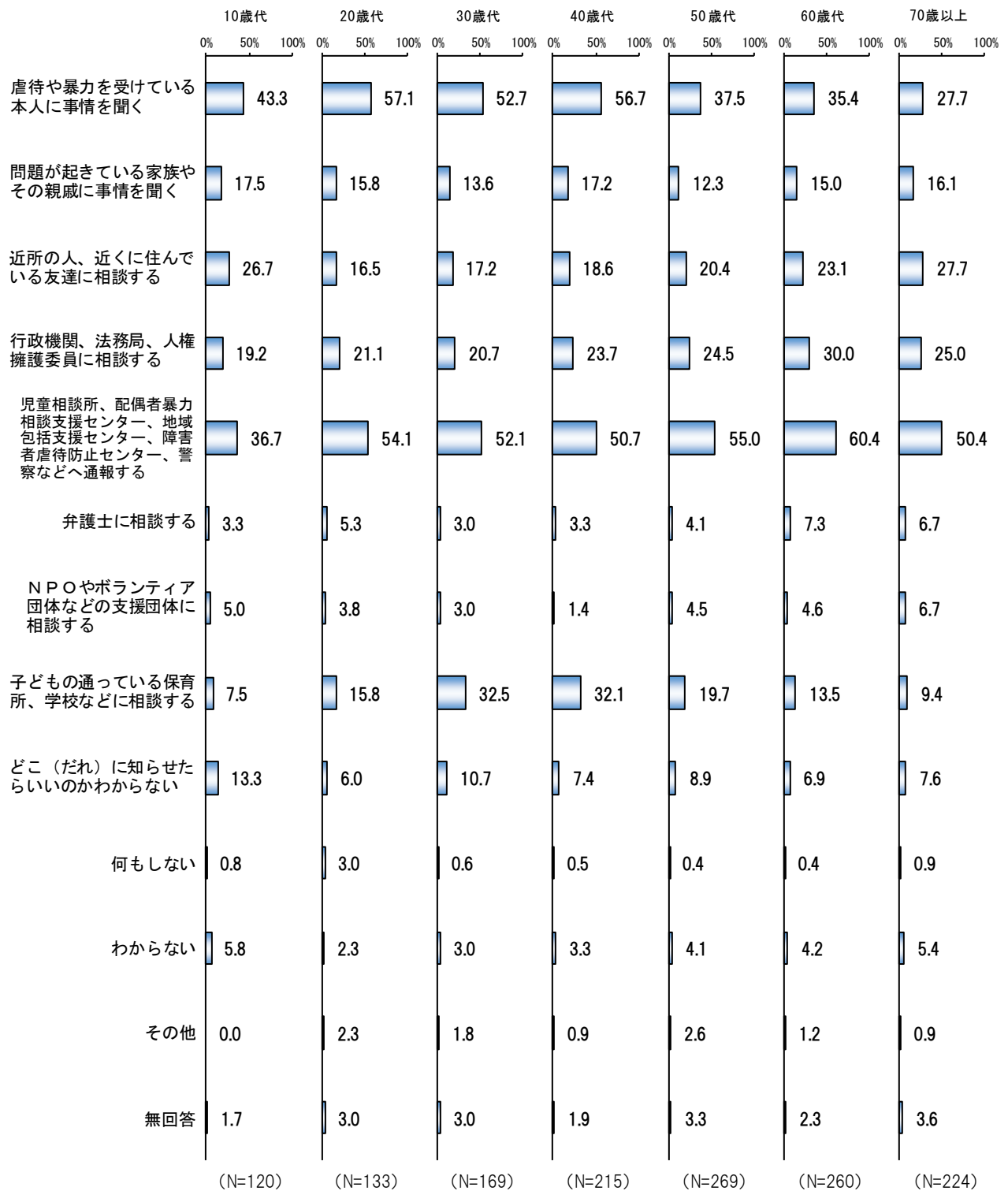
性別で見ると、男女ともに「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が最も高く、次いで「虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く」となっている。

第3位は、男性が「行政機関、法務局、人権擁護委員に相談する」、女性が「近所の人、近くに住んでいる友達に相談する」となっている。

「近所の人、近くに住んでいる友達に相談する」が最も男女差が大きく、男性(16.4%)よりも女性(25.4%)の方が9.0ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位: %)



年齢別で見ると、10~40歳代は「虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く」、50歳代以上は「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が最も高くなっている。

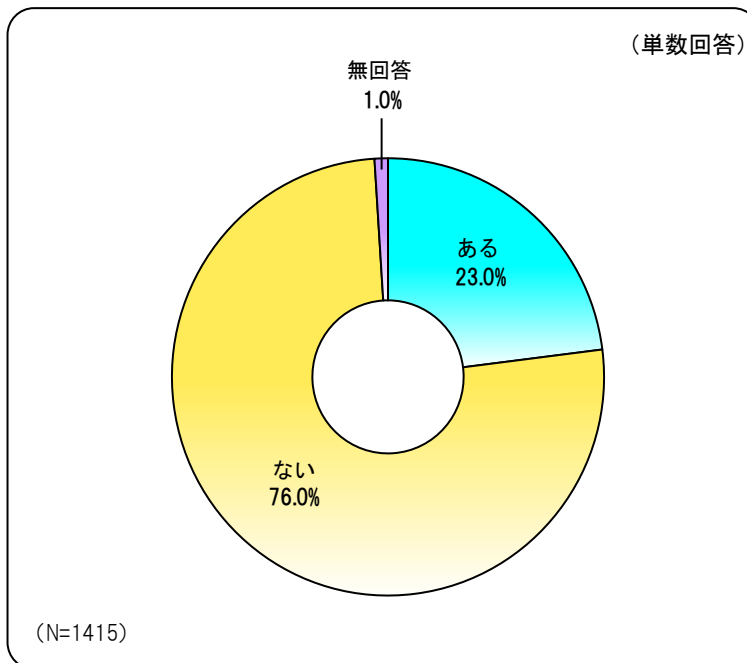
問5 講演会や研修会への参加の有無

あなたは、過去約5年の間に「人権問題」に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)

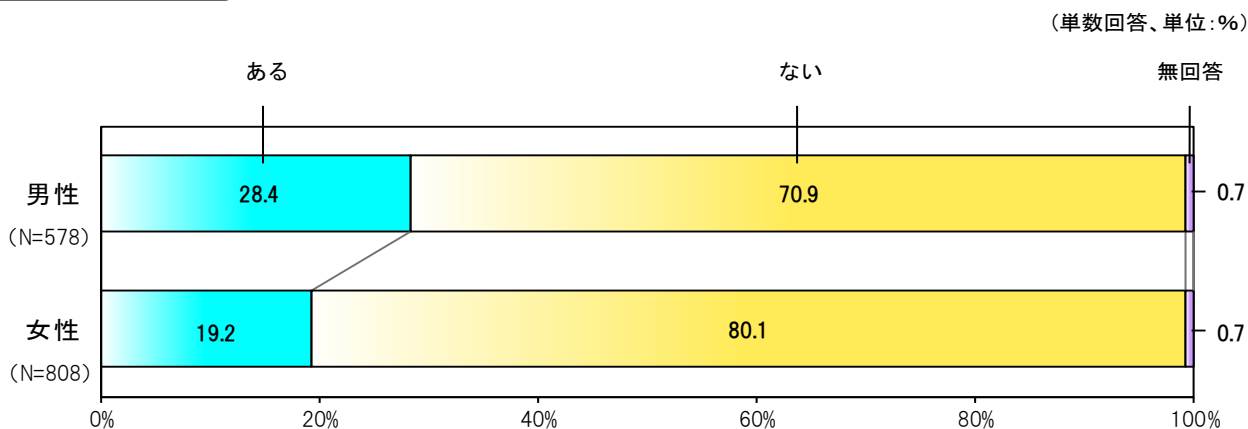
1. ある
2. ない → 問5-2をお答えください

全体集計

「人権問題」に関する講演会や研修会への参加について、「ある」の割合が23.0%、「ない」が76.0%となっている。



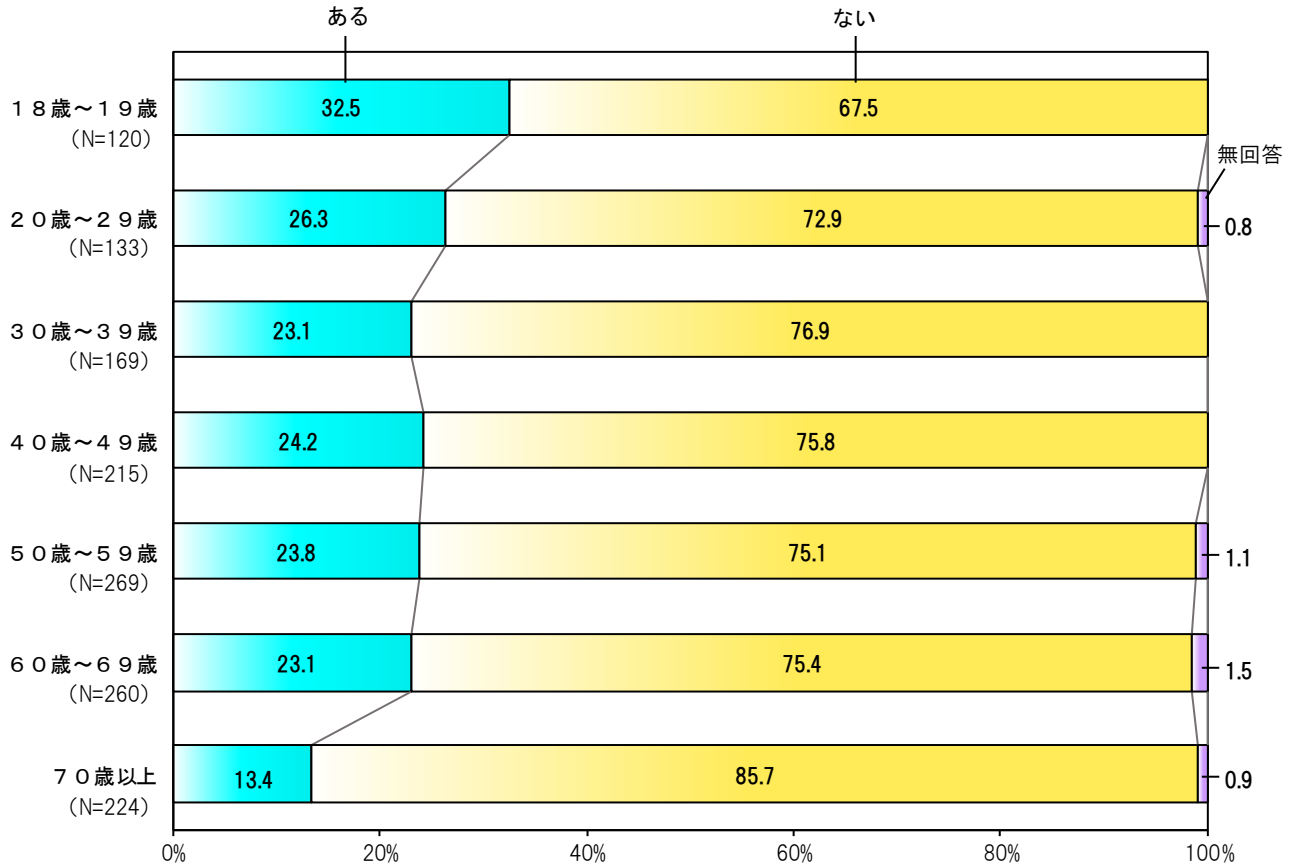
性別集計



性別で見ると、参加したことが「ある」割合は、女性(19.2%)よりも男性(28.4%)の方が9.2ポイント高くなっている。

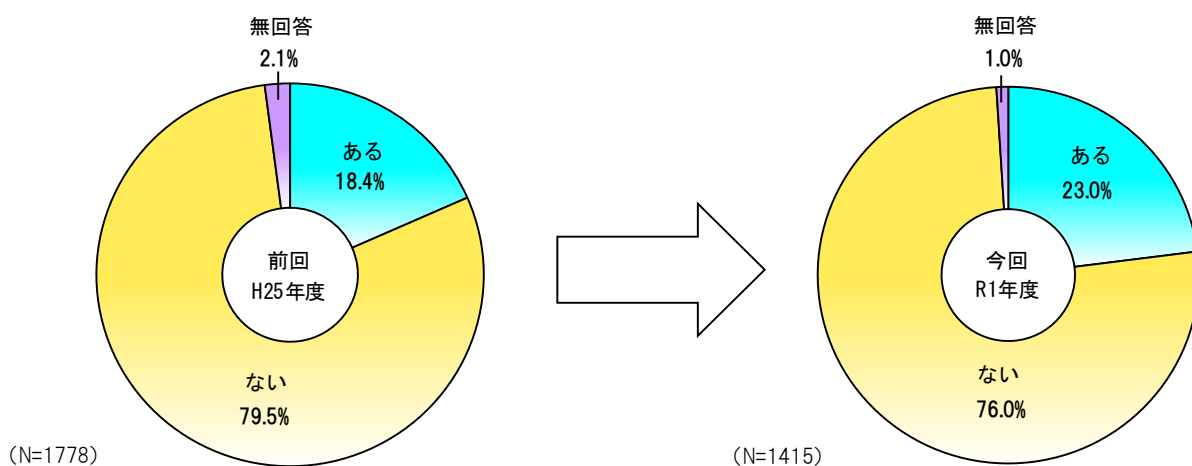
年齢別集計

(単数回答、単位：%)



年齢別で見ると、参加したことが「ある」割合は、10歳代が最も高く、次いで20歳代、40歳代の順となっている。

過去の調査との比較



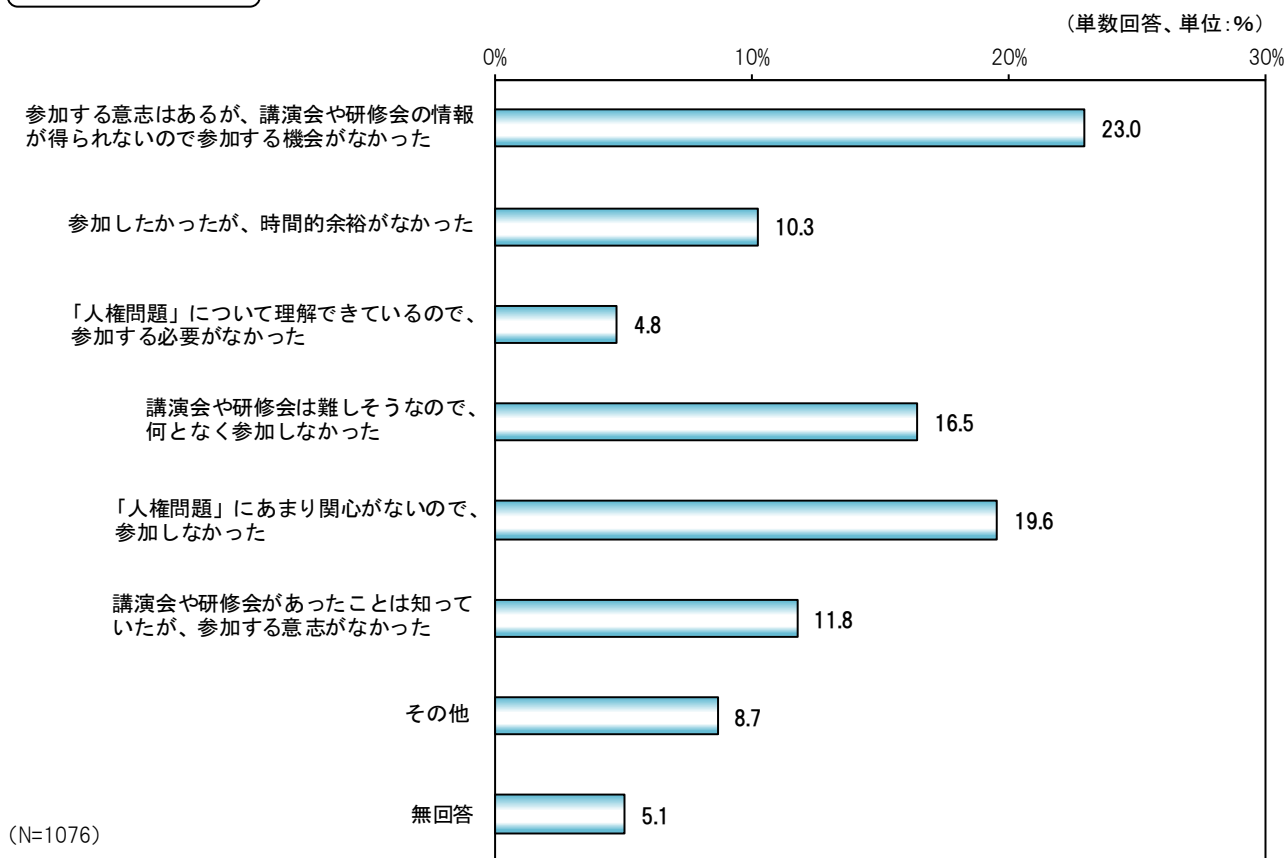
前回の調査と比較すると、参加したことが「ある」割合は4.6ポイント高くなっている。

問5-2 講演会や研修会に参加しない理由

問5で「ない」と答えた方におたずねします。あなたが講演会や研修会に参加しなかった理由を、次の中から選んでください。(〇は1つだけ)

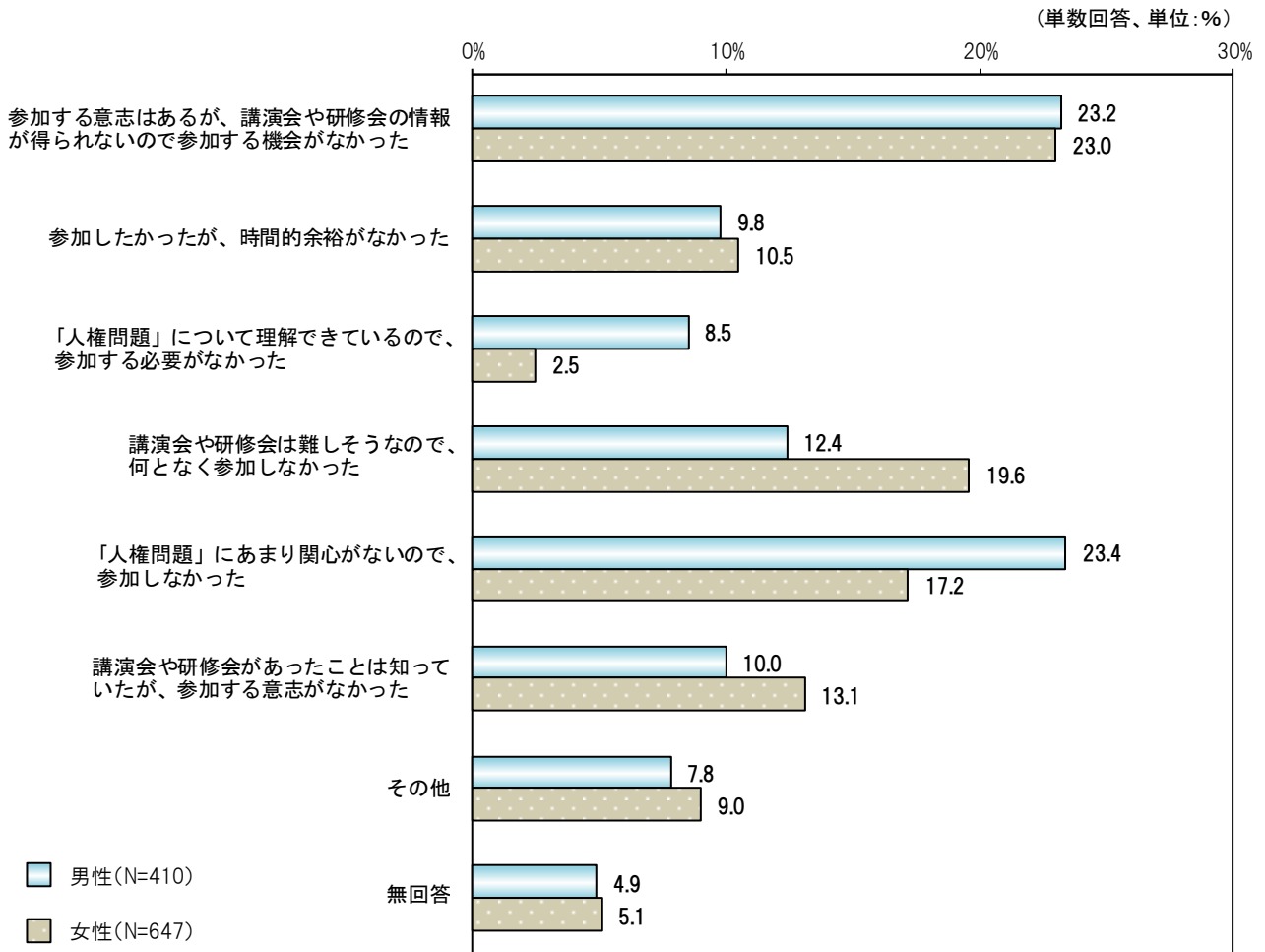
1. 参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった
2. 参加したかったが、時間的余裕がなかった
3. 「人権問題」について理解できているので、参加する必要がなかった
4. 講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった
5. 「人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった
6. 講演会や研修会があったことは知っていたが、参加する意志がなかった
7. その他 ()

全体集計



「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」の割合が 23.0%と最も高く、次いで「「人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった」が 19.6%、「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」が 16.5%となっている。

性別集計



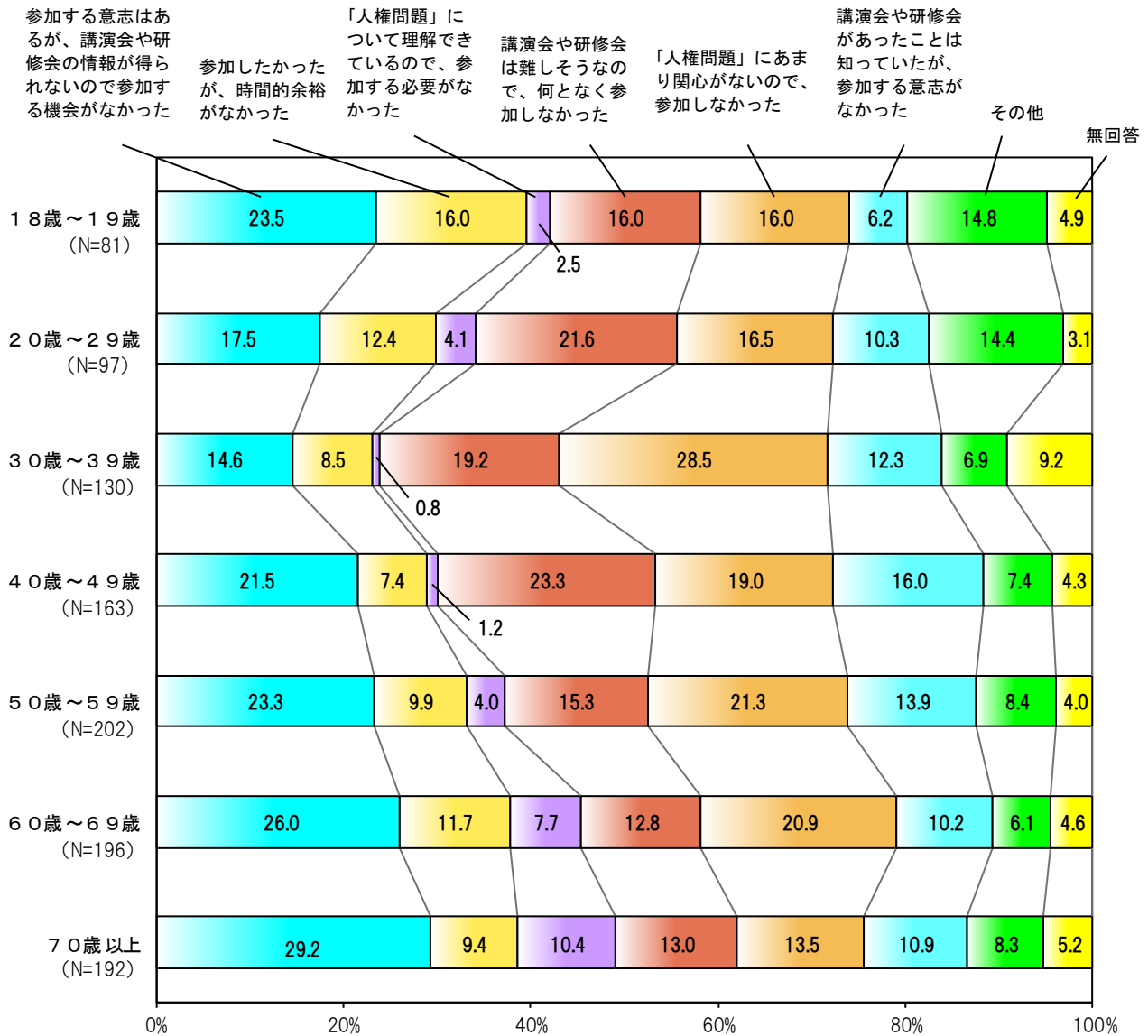
性別で見ると、男性は「「人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった」の割合が最も高く、次いで「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」、「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」の順となっている。

女性は「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」の割合が最も高く、次いで「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」、「「人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった」の順となっている。

「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」が最も男女差が大きく、男性(12.4%)よりも女性(19.6%)の方が7.2ポイント高くなっている。

年齢別集計

(単数回答、単位: %)



年齢別でみると、10歳代、50歳代以上は「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」、20、40歳代は「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」、30歳代は「「人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった」の割合が最も高くなっている。